



2019年3月期 決算説明資料

株式会社ダブルスタンダード（証券コード：3925）

代表取締役 清水 康裕

2019年5月13日

1. 2019年3月期 決算概要 . . . P.3

- (1) 決算ハイライト . . . P.4
- (2) 連結損益計算書 . . . P.5
- (3) 連結売上高 . . . P.6
- (4) 連結営業利益 | 経常利益 . . . P.7
- (5) 連結貸借対照表 . . . P.8
- (6) 連結キャッシュ・フロー . . . P.9
- (7) 配当政策 . . . P.10

2. 2020年3月期 業績予想 . . . P.11

- (1) 基本方針 . . . P.12
- (2) 連結業績予想 – 売上高・営業利益 . . . P.13
- (3) サマリー . . . P.14
- (4) 配当政策 . . . P.15

3. 事業説明 . . . P.16

- (1) 基盤技術の概要 . . . P.17
- (2) 事業説明 (事例 | 含: 開発中) . . . P.18

本資料の予測数値は、本資料の発表日までに入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。

2019年3月期 決算概要

決算ハイライト

1

前年同期比大幅増収増益。

売上高	2,812,981 千円	(前年同期比 +815,774千円、+40.9%)	↑
営業利益	866,218 千円	(前年同期比 +314,765千円、+57.1%)	↑

2

創業来、7期連続増収増益を達成。

業績予想の上方修正を経て、過去最高の売上高及び利益を更新。

3

**OCR処理を軸とするAI活用型RPAサービスが順調に提供拡大中。
業務効率・簡便化の支援サービスとして成長。**

【AI搭載型OCR導入実績】

マネックス証券株式会社 | 株式会社SBI証券 | 大和リビング株式会社 | カブドットコム証券株式会社
野村証券株式会社 等

※その他、プレスリリース等を実施しておりませんが、導入済または導入準備段階の案件が複数業界から頂戴しています

連結損益計算書

案件数拡大による売上高増

安定収益基盤であるストック型案件の順調な受注と、AI活用型RPAサービスの受注増加によって売上高が順調に拡大し増収増益となった。

要員増員および販管費増加の吸収

売上高増加に伴う外注費や通信関係費用の増加、および要員増員等や決算賞与支給等の販管費の増加があったが、売上高の増加によって増加した費用を吸収し利益が拡大した。

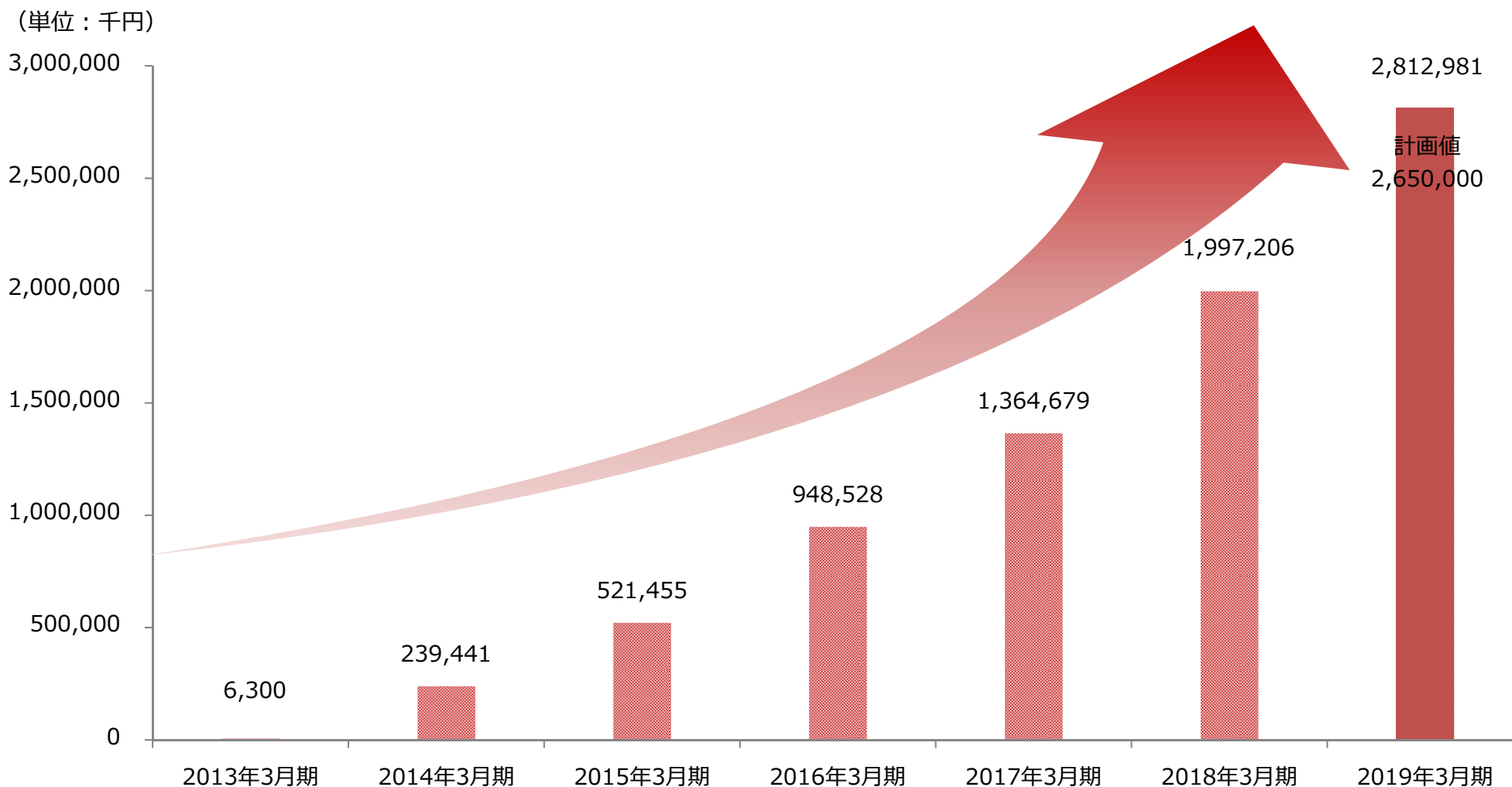
(単位：千円)

	2019年3月期	2018年3月期	前年同期比		2019年3月期	計画数値
	実績	実績	金額	増減率	年度計画	達成率
売上高	2,812,981	1,997,206	+815,774	+40.9%	2,650,000	+106.2%
売上原価	1,358,045	980,925	+377,120	+38.4%	1,273,997	+106.6%
売上総利益	1,454,936	1,016,281	+438,654	+43.2%	1,376,002	+105.7%
販管費	588,717	464,828	+123,888	+26.7%	526,002	+111.9%
営業利益 (利益率)	866,218 30.8%	551,452 27.6%	+314,765	+57.1%	850,000 32.1%	+101.9%
経常利益 (利益率)	876,333 31.2%	559,971 28.0%	+316,351	+56.5%	854,400 32.2%	+102.6%
当期純利益 (利益率)	585,357 20.8%	324,064 16.2%	+261,292	+80.6%	546,816 20.6%	+107.0%

■ 連結売上高

ストック型 : AI・アルゴリズム処理を軸としたデータクレンジング、および当該技術を応用転用したサービス企画ならびに開発の積み上げにより、受注拡大が顕著に。

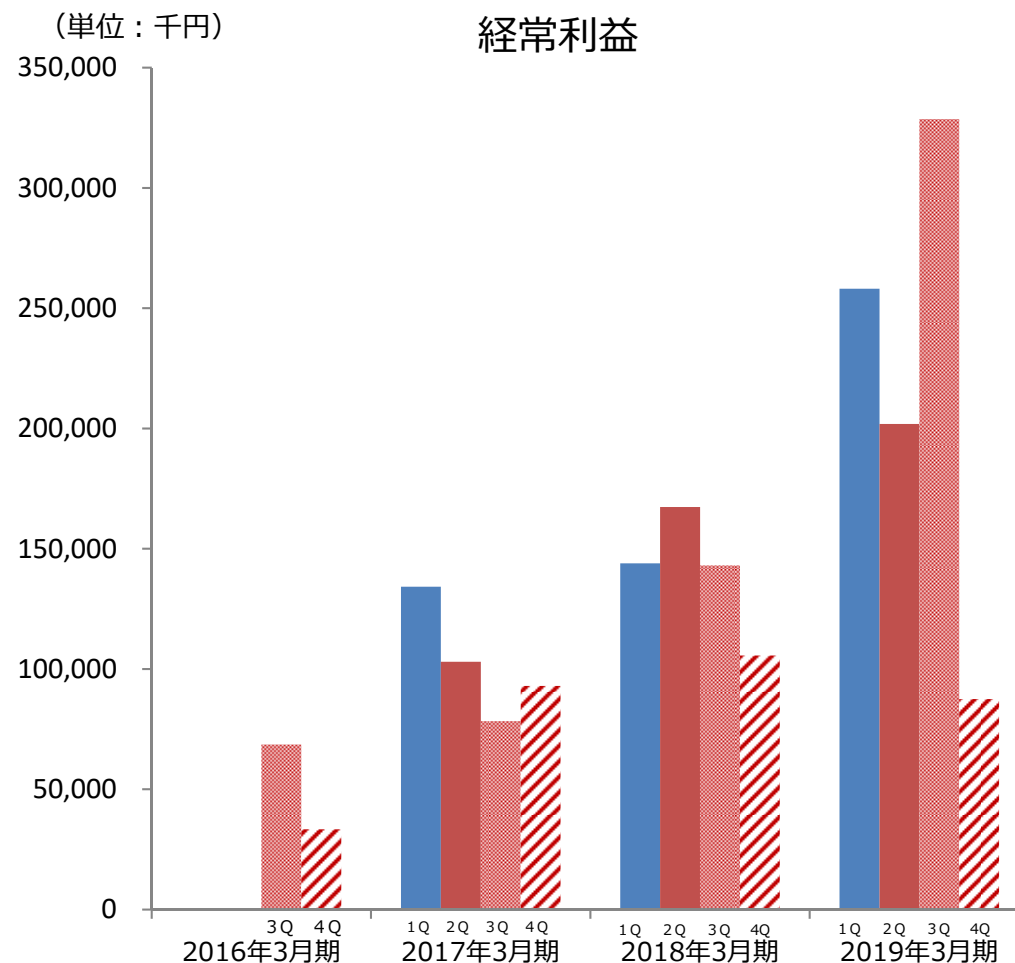
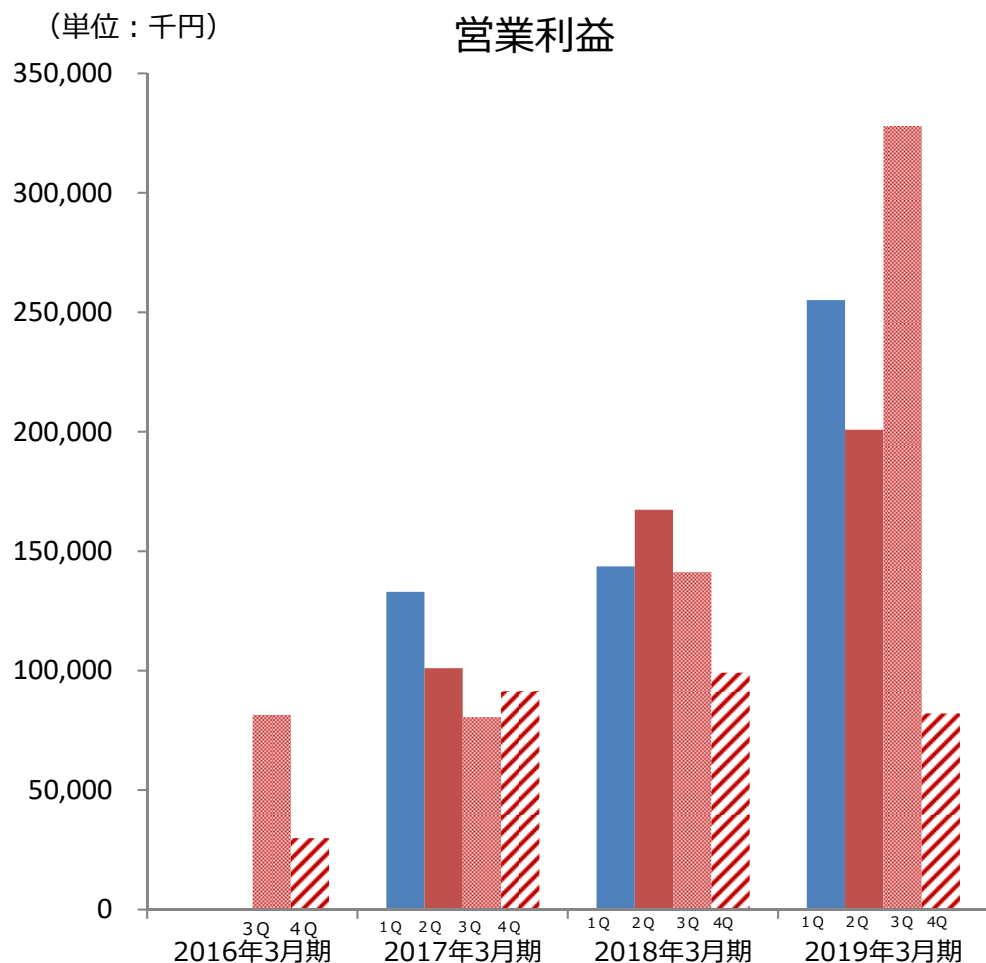
非ストック型 : 複数の新サービスがサービスインしたことにより増加。



■ 連結営業利益 | 経常利益

4Qでは、優位性強化とコスト効率改善に向けて基盤投資を増加させたこと、創業来初めての決算賞与支給、要員強化に向けた採用費用など、事業投資に注力した。

サービス品質と業務オペレーション、運用コストの効率化を図り、次期以降の収益力UPを目指す。



連結貸借対照表

【資産】 … 増益による現金及び預金の増加を主とした流動資産の増加により資産が増加。

【負債】 … 受注増による買掛金の増加、増益による未払法人税等の増加により負債が増加。

【純資産】 … 継続的な利益拡大により純資産が増加し、盤石な財務基盤を維持。

(単位：千円)	2019年3月期	2018年3月期	前期末との比較	
	実績	実績	増減金額	増減比率
流動資産	1,938,445	1,378,081	+560,364	+40.7%
うち、現金及び預金	1,658,279	1,040,587	+617,691	+59.4%
固定資産	232,773	233,644	△870	△0.4%
総資産	2,171,218	1,611,725	+559,493	+34.7%
流動負債	448,794	340,857	+107,937	+31.7%
純資産	1,722,424	1,270,868	+451,555	+35.5%
自己資本比率 (%)	79.3%	78.8%	—	—

■ 連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ増加を「業務効率化・人材採用」と「株主還元」に充当。
引続き「業務効率化」および「人材採用・教育」と「新規サービスの開発」に充当予定。

(単位：千円)	2017年4月1日 ～2018年3月31日	2018年4月1日 ～2019年3月31日	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,186	789,066	+598,880
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60,152	△37,242	+22,910
財務活動によるキャッシュ・フロー	△107,565	△134,133	△26,567
現金及び現金同等物の増減額	22,468	617,691	+595,223
現金及び現金同等物の期首残高	1,018,119	1,040,587	+22,468
現金及び現金同等物の期末残高	1,040,587	1,658,279	+617,691

■ 配当政策

配当方針

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題であると認識しております。上場間もない当社ではありますが、継続的に株主の皆様に対する利益還元を実施する方針であります。配当金につきましては、内部留保による財務体質の強化を図りつつ、連結業績および財政状態を勘案しながら、利益配当を行っていく方針であります。

配当性向

2019年3月期の連結配当性向につきましては**25%を目安**とし、当初計画値のとおり配当性向は27.6%の1株24円を予定しております。

● 1株当たり配当金表

	1株当たり配当金（円）			配当性向（%）	ROE（%）
	中間	期末	合計		
2017年3月期	—	33円	33円	39.0%	26.4%
2018年3月期	—	40円	40円	41.2%	25.5%
2019年3月期	—	24円	24円	27.6%	34.0%

注1) 2017年3月期は普通配当21円と特別配当12円、2018年3月期は普通配当25円と特別配当15円を合算して記載しております。

注2) 2017年3月期および2018年3月期については、株式分割前の実際の配当額を記載しております。

2020年3月期 業績予想

基本方針

1

「営業部門廃止 | エンジニアによるサービス啓蒙活動への転換」

I P O以降、断続的にお問合せを頂戴していること、既存顧客から見込客を随時ご紹介いただく中で、一層の顧客開拓コスト抑制により、高品質なサービスを実現する方針を掲げ、対応要員を専門知見のあるエンジニア中心に軸を移し、顧客ニーズを最適にくみ取る組織作りを行いながら、業容拡大を図ります。

2

「SaaS発想でのサービス強化と顧客ニーズの個別具現化」

当社技術基盤については、顧客全体に提供するサービス価値を左右するため、積極的な改善・投資活動を継続していく一方で、エンジニアによる顧客ニーズ収集を励行し、個別課題の改善をお手伝いさせていただきながら、全社収益を高めていくこととします。

3

「ストック型案件の受注拡大・継続率維持活動の遂行」

提供サービスを、顧客の事業ならびに業務の基盤となる領域で取り扱われる内容に仕上げ、且つ売上拡大もしくは費用削減に寄与しつつ、安定的な収益確保を実現できるものに集中させています。

■ 連結業績予想 – 売上高・営業利益

「事業の安定成長」

2020年3月期においても、事業の柱をビッグデータ関連事業、サービス企画開発事業に据え、技術および知見の応用転用を繰り返しながら、サービスを拡大し、安定成長を目指してまいります。特に、強いニーズが存在するデータクレンジングサービスを、様々な企業様に提供してまいります。

「要員の質量強化」「徹底した業務効率化」「積極的な価格抑制」

クライアント接点に恵まれている現況、対応要員の質量強化、サービスの断続的な開発・発信、積極的な価格抑制および削減に取り組みつつ、特異性の高いサービスを、徹底した業務効率化によって、低価格でご提供差し上げ、高いご満足をいただけるよう取り組んでおります。

「断続的な新規サービスの開発・提供」

昨年度、主に金融機関向けに開発した新規サービスについて、業界内外で順調に縦横展開を開始しました。サービス開発およびその提供を如何に加速させるか、当社技術基盤を応用・転用することでこれを実現してまいります。

サマリー

かねてより実践してまいりました、ストック型案件受注の取組強化が功を奏し、過年度以上に前期比で大きく成長することを見込んでおります。経営判断として、今期は特に当該方針への取組に注力し、そこに要員等リソースを集中させます。これにより、従来から上期偏重傾向にあるワンタイム中心のサービス企画開発事業の伸びが一時的に落ち着く可能性がある一方、通期ならびに将来には良い影響を与えると判断しました。

売上高

AI搭載型OCRを中心に新サービスの受注拡大
安定収益基盤であるストック型案件の継続成長

予想売上高 **3,235,000**千円

前期比 **+15.0%**

営業利益

先行投資の実施により生産性向上が実現
更なる利益率向上を見込む

予想営業利益 **1,004,900**千円

前期比 **+16.0%**

(単位：千円)	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 予想	
	実績	実績	実績	予想	前期比
売上高	1,364,679	1,997,206	2,812,981	3,235,000	+15.0%
売上原価	594,412	980,925	1,358,045	1,485,221	+9.4%
売上総利益	770,267	1,016,281	1,454,936	1,749,778	+20.3%
販管費	364,120	464,828	588,717	744,878	+26.5%
営業利益 (利益率)	406,146 (29.8%)	551,452 (27.6%)	866,218 (30.8%)	1,039,500 (31.0%)	+16.0%
経常利益 (利益率)	408,704 (29.9%)	559,971 (28.0%)	876,333 (31.2%)	1,051,600 (31.3%)	+15.6%
当期純利益 (利益率)	266,596 (19.5%)	324,064 (16.2%)	585,357 (20.8%)	702,500 (20.7%)	+14.6%

■ 配当政策

配当方針

当社グループは株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題であると認識しております。上場間もない当社ではありますが、継続的に株主の皆様に対する利益還元を実施する方針であります。配当金につきましては、内部留保による財務体質の強化を図りつつ、連結業績および財政状態を勘案しながら、利益配当を行っていく方針であります。

配当性向

2020年3月期の連結配当性向につきましては**25%を目安**とし、過年度配当性向を勘案のうえ、配当性向30.1%の1株当たり30円を予定しております。

● 1株当たり配当金表

	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)
	中間	期末	合計	
2018年3月期	—	40円	40円	41.2%
2019年3月期	—	24円	24円	27.6%
2020年3月期 (予想)	—	30円	30円	30.1%

注1) 2018年3月期は普通配当25円と特別配当15円を合算して記載しております。

注2) 2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2018年3月期については、当該分割前の実際の配当の額を記載しております。

事業説明

基盤技術の概要

ビッグデータ関連事業

「技術の組み合わせ」で出来るサービス

●取得情報活用型サービス

取得情報に対し、当社クレンジング技術を活用して高精度のデータを生成。競合ポータルの分析や、営業用のアタックリストとして活用いただけるデータをご提供



●PDF情報活用型サービス

OCRで取得した情報に対し、当社クレンジング技術により、様々な形式に成形加工したdataを提供



●顧客DB活用型サービス

顧客の保有するDB情報を活用した、新たなコンテンツの開発・運用を支援



●帳票活用型サービス | チラシ活用型サービス

請求書などの帳票や、求人広告チラシなど紙にしかない重要情報をDB化。従来、宝の持ち腐れになっていたアナログ情報のデジタル化を支援します。



ビッグデータ処理に関する基盤技術

DOUBLE STANDARD

①情報収集

HTML、PDF、画像、請求書、帳票、音声、その他の情報収集



②情報抽出

収集情報のテキスト化・コラム化



③クレンジング

テキスト化・コラム化された情報のクレンジング



⑤レコード振分

クレンジングが完了したレコードの振分処理



④マッチング

揺らぎを含んだデータ同士のマッチング



サービス企画開発事業

「技術の組み合わせ」+「サービス企画開発力」で実現するサービス

●情報収集+情報抽出技術を活かした変更検知システム

調査対象の情報掲載・更新を自動で定期的にチェック。最新情報の見逃し排除 + 作業効率化で顧客業務をサポートします。



●情報収集+情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

商品の最安値情報や不動産物件の賃料相場など、様々な情報をクロールで取得し、当社技術を活用して有益な情報を生成。



●情報抽出+情報加工+マッチング技術を活用した各種サービス

音声や位置情報など、非html情報をDB化。適切なデジタルレコードに変換し、顧客の販促支援・業務削減をサポートします



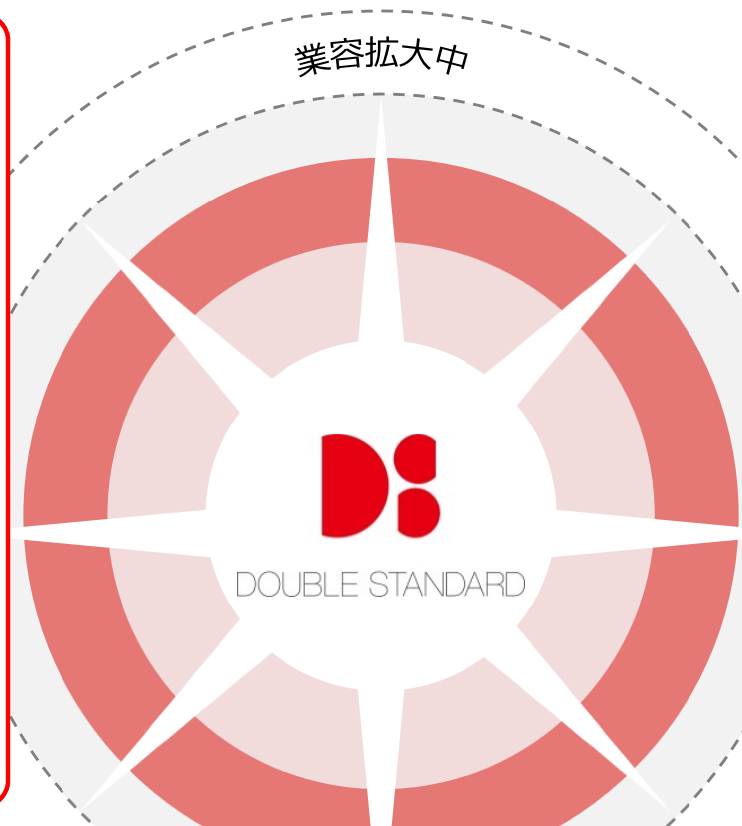
●その他企業向けサービス

当社技術を総合的に活用した、企業向けの様々なサービスを展開



ビッグデータ関連事業 | サービス企画開発事業 (事例 | 含: 開発中)

顧客に寄り添い、現場課題を解決するため、高度な技術と知見を活用して劇的なイノベーションを実現します！！



ビッグデータ活用領域

(ビッグデータ関連事業)

✓ **マーケティング活動支援システム(WEB)**



✓ **マーケティング活動支援システム(紙)**



✓ **顧客データ強化・活用システム**



RPA(Robotic Process Automation)領域

(ビッグデータ関連事業)

✓ **バックオフィス業務自動化システムなど**



FinTech領域

(サービス企画開発事業)

✓ **WEB口座開設支援システムなど**



AI 活用領域

(サービス企画開発事業)

✓ **変更箇所自動検知システム**



✓ **音声テキスト化システム**



✓ **コンタクトセンター業務改善支援システム**



✓ **位置情報活用型マーケティングシステム**



本資料に記載されている経営戦略、計画や見通し等は、本資料作成日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る一定の前提条件に基づいており、当社としてその実現を保証するものではありません。

実際の業績は、業界の状況、経済の状況、金融市場の動向の他、様々な要因によって大きく変動する場合があります。予めご承知おき下さい。

本資料は、株式会社ダブルスタンダード及び当社関係会社の事業の概要へのご理解をいただくために作成されたものであり、投資の勧誘または斡旋を行うものではありません。投資に関するご判断は投資家様ご自身の責任で行われますようお願い申し上げます。

